

○ 産業を中核とした考察の仕方を基にして、中部地方の地域的特色をとらえさせる学習

日本の諸地域について、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、様々な考察（自然環境、歴史的背景、産業、環境問題や環境保全、人口や都市・村落、生活・文化、他地域との結び付き）の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる学習の展開について、中部地方を例に述べる。

【 中部地方（産業を中核とした考察を基にした学習の展開例） 】

（課題設定の段階）

産業を中核とした考察を基にした学習を展開するに当たって、まず、全国規模の主題図や都道府県別の統計などの資料を活用して日本全体の視野から中部地方の特色に気付かせる。



例えば、「太平洋側の愛知県や静岡県は、全国的にみて工業生産額が高い」、「日本海側は全国的にみて水田率の割合が高い」、「中央部の長野県や山梨県では果樹の生産額が高い」といった産業に関する特色をとらえることができる。

また、地図帳を活用して中部地方を概観すると、「太平洋側に輸送機械工業が集積している地域がみられる」「中央部の盆地で果樹園が、八ヶ岳周辺で畑の分布がみられる」、「日本海側では平野部を中心に田が卓越している」といった地理的事象が見いだせる。

このような中部地方の特色を基に例えば次のような課題の設定を行う。

課題：「全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合が高い理由を追究しよう」

- ・ 中部地方の産業に関する特色ある地理的事象を取り上げ中核に据える。
そして、それを自然環境や消費地、原料供給地との関係など、その産業を成立させている地理的諸条件と関連付けて追究する。

（課題追究の段階）

前述の課題を解決するために、例えば、「日本海側で稲作が盛んな理由を調べよう」や「愛知県や静岡県で輸送機械工業が発達した理由を調べよう」といったサブテーマを設定し、追究する。

こうしたサブテーマの追究を通して、「全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合が高い理由を追究しよう」の課題の解決を図っていく。

(追究の仕方)

- それぞれの地理的事象を追究した結果を比較することで，例えば「東海地域と中央高地の野菜生産を比べると，名古屋や東京など大消費地との位置関係が影響している点が共通している」とか，「地域の産業の動向は，技術の発達や他地域との関係などにより変容している」といった共通性についてもとらえさせる。
- 「水田単作を特色とする北陸地域」といった地域の等質性にも着目させ，改めて地域区分の意味を考えさせることもできる。

※ 共通性→他地域にも共通にみられる性質のこと

等質性→例えば水田単作地域，酪農地域といったその地域に同じような特色がみられること

(課題解決の段階)

【言語活動の充実→追究の過程や結果を生徒に表現させる】

- 学習のまとめとして，中部地方の産業に関する地理的事象を中核として，それを成立させている地理的諸条件と関連付けて追究した過程や考察の結果を，分布図や地図などを活用して発表させたり，簡単な説明文にまとめさせたりするなどの言語活動を位置付けたりする工夫が考えられる。